

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

南丹市立美山中学校

美山中学校では、美山中ブロックの2保育所・小学校との連携を大切にし、幼児・児童・生徒の参観を通して状況を交流し、課題を設定した授業研究会等の研修を通して、統一目標である「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める美山っ子の育成」の実現に向けて取組を進めています。

「全国学力・学習状況調査」(中3)は、中学校2年生修了段階までの国語、数学、英語の学力の定着状況を把握・分析することで、学習指導上の課題を明らかにするとともに、個に応じたきめ細かい指導方法の工夫や改善の充実に役立てることが目的です。

その結果と分析についての概要をお伝えします。本テストでは、生活等についての質問紙調査も実施されており、その回答結果から、生徒の今の学習状況や生活の様子についても分析結果をお伝えしますので、学力との関連性やよりよい家庭生活に向けて、ご家庭で見直しを図っていただく機会の一つにさせていただければ幸いです。

ただ、データとしての母数が小さく、1名の回答が10%を占めるという状況です。あくまでも、参考として捉えていただきたいと思います。

1 今、求められる学びの姿勢（授業への臨み方）とは

本校では、全教育活動を通して、読解力・表現力の向上を図ることを目指して授業改善や行事の精選に取り組んできました。生涯にわたって学び続けるための基盤として豊かな言語力を含めた国語力向上のために、自分の考えや思いを相手意識を持ってわかりやすく伝えることが必要です。そのためには、

- ・場にふさわしい声の大きさで、自分の意見を発表する。
(聞き手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力)
- ・根拠を明確にして自分の考えを筋道立てて構成していく。(まとめる力)
- ・言葉や言い方から話の内容をくみ取る。(聴きとる力)
- ・論理的な文章を読む。(長い文章を苦にせず根気強く読み解く力)

以上のことを意識して、今後も学習や行事等に取り組んでいきます。

2 「全国学力・学習状況調査」の概要について

対象学年	中学校3年生
実施日	平成31年4月18日(火)
科目・時間	国語(50分) 数学(50分) 英語「聞くこと、読むこと、書くこと」調査(45分) 生徒質問紙(20分程度) 英語「話すこと」調査(5分)
出題範囲	中学校第2学年までに含まれる指導事項
内容	[教科に関する調査(国語・数学・英語)] 英語は、「英語(聞くこと、読むこと、書くこと)」及び「英語(話すこと)」の2種で実施 [質問紙調査] 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する様子

3 本校の状況について

調査結果から、本校は京都府・全国の平均と比較して、国語、数学、英語「話す」で「高い」、英語「聞く、読む、書く」で平均は上回っているものの「同程度」という結果であることがわかりました。

教科に関するそれぞれの問題数は次のとおりです。

国語	10問
数学	16問
英語「聞く・読む・書く」	21問
英語「話す」	5問

それぞれについて、全国平均正答率と本校平均正答率とを比較した場合、結果は右の表のようになります。

なお、「高い」「低い」の範囲は全国平均正答率との差が5ポイント以上あることを示しています。

基準	- 5	0	+ 5
	低い	同程度	高い

	全国平均正答数との比較
国語	高い
数学	高い
英語 聞読書	同程度
英語 話す	高い

4 各教科の概要について

(1) 国語

全領域で、府・全国の平均正答率を上回りました。しかし、問題別に見ると、自分の考えをまとめて書く、文章を読んで要約して書くなど、選択肢から選ぶものではなく、文章で答えるという問題については、平均を上回っているものの、他の問題よりも平均に近く、苦手意識を持っていることがうかがえます。また、丁寧に読み取るという点においても同様の傾向が見られます。

国語の学習内容には、授業中の理解だけでは定着しない事柄もたくさんあります。授業中に理解できたことを家庭学習で復習することによって、自分の知識として定着させるという時間を確保していくことが大切です。また、今回明らかになった課題は、一度学習しただけで簡単に身につく内容でもありませんので、こつこつ努力を継続させることも大切です。

(2) 数学

多くの領域で、府・全国の平均正答率を上回りました。ただし、「関数のグラフの読み取り」などの関数に関する問題、証明に関する問題では平均を下回りました。また、文章問題の意味を正確に読み取って、数字や数式で表すという面の弱さ、符号の間違いや思い込み・勘違いによる間違いなどのケアレスミスも見受けられました。

今後は、課題が見られた関数や数量関係についての基礎基本を復習し、文章問題の演習を多く取り入れるなどして改善を図るとともに、数学的な知識についても再度整理し直すことで既習事項を定着させます。また、身の回りの事象から、問題解決しようとする姿勢や筋道立てて説明する表現力や論理的な思考力が身に付けられるよう、学習を進めていきます。

(3) 英語「聞く・書く・読む」

概ね府・全国の平均正答率と同様の結果でした。「聞くこと」に関しては、会話を聞いてその内容を読み取り、選択肢から答える問題、また、英文で記述する問題で平均を下回りました。「読むこと」に関しては、英文の内容を読み取り、その要旨や要点について、書いたり説明したりする問題で平均を下回りました。「書くこと」に関しては、与えられた情報に基づいて三人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題、自らの考えを根拠を示して英作文する問題で平均を下回りました。

(4) 英語「話す」

設問ごとの回答として満点ではないが部分点により、府・全国の平均正答率を上回りました。不十分な点の例として、月日が正しく覚えられていない、現在分詞を使えていない、文で答えられていないということがありました。また、会話の流れの中で適切な応答ができていないというものがありました。

英語科の授業で、これまで同様に、できる限りオールイングリッシュで授業を進める中で、聞きとる・発話する機会を拡充し、より正確な聞き取り、話す力を高めていきます。また、基本事項である単語を正確に読み書きすることや文型、時制の一致や分詞の使い方など、随所で押さえながら、英語力全般の力を高めていきます。

*質問用紙の回答から、各教科のテストで、回答時間が足りなかったと感じている生徒の割合が高かったです。限られた時間の中で題意をしっかりと読み取り、答えるべき内容を素早く判断できるようにするため、全教科を通じて、語彙力や国語力を高めることを意識して授業を展開します。問題文をしっかりと読むこと、問題の意味をしっかりと押さえることも大切にしていきます。また、授業を通じて、自らの考えについて根拠を示して分かりやすく伝えること、互いの考えをしっかりと聞き合い、考えを深める授業を大切にしていきます。

5 質問紙調査について

本調査では、授業への臨み方、家庭学習への臨み方、学校生活全般、家庭生活全般等に関して、69項目の質問に生徒が回答しています。

本校生徒は、概ね全国や京都府と比較すると学習や生活に前向きに取り組み、日々の学校生活や家庭生活を肯定的に捉えようとし、まじめに落ち着いて過ごしているという様子がうかがえます。ただ、一つの特徴として、質問に対し「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の数値は高いものの、「そう思う」のみをとれば、平均を下回る傾向が見られました。自信を持って自らをアピールすることに遠慮がちであり、ある意味では弱い部分であると推察しています。

引き続き、学校生活の中でより自主的・より主体的な意識を持たせた様々な取組や学習活動を通して、学び合える学級集団を目指すとともに、よりよい生き方を選択できる力を身に付けられるようにしていきます。

肯定的な回答が多かった質問項目から	
○学校の規則を守っている	○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う
○人の役に立つ人間になりたいと思う	○人が困っていたら進んで助ける
*正義感や公序良俗に対して意識が高い	
*クラスの仲間を大切に思い、諸取組から充実感を覚えている	
○地域の行事に参加している	
*地域と関わったこれまでの学習の経験から、地域を身近に感じ大切に思っているもの、将来を見据え具体的にすべきことまでは考えられていない	
○読書が好きか、また読書量	*読書週間があり読書量も多い
○ITやパソコンに強い関心	*近未来社会に対応しようとする意欲が見られる
回答結果から改善の必要性(疑問・課題)を感じる質問項目	
○毎日の起床・就寝・朝食	*一部に規則的な生活が送れていない傾向が見られる
○自分には良いところがある	*自己肯定感がやや低い傾向が見られる
○夢や目標があるか	*若干下回っているが、チャレンジ精神は高い
○1日にどれくらい勉強をするか	*1時間～2時間という範囲で平均を上回るが、2時間以上は下回っている。本校の10月のアンケートで、半数以上の生徒が毎日1時間以上スマホ・ゲームに費やしている実態との相関関係が考えられる。(生活リズムにも影響か)

◆結果を受けて、学校としてさらに充実させて進めていくこと

(1) さらなる授業改善と【見通し（めあて）と振り返りのある授業】

評価計画を提示し、何を学ぶのか、何をどう頑張ればいいのかを見通しが持てるよう考えています。

また、毎時間の授業においても、最初にその時間のめあて(ゴール)を確認し、生徒相互の学び合いの場面から、様々な気づきのある授業作りに努めます。また、1時間の学びを確認できる振り返りを通して、一人一人が学びを整理し、家庭学習につなげて定着を図る授業を目指します。

(2) 自学自習の習慣化への取組【自主学习ノートの取組】

「自主学习ノート」は、生徒の理解度や状況に応じて、生徒自身で課題を見つけ考えながら行うことで、より個人の課題に適した学習を行うことをねらいとしています。自主学习チェックシートなどを活用しながら、単純に要した時間のみにこだわるのではなく、自己の学習を振り返り、その意義や効果を自分自身で実感しながら取り組めるようにしていきます。自分で学習の課題が見つけれない生徒には基本的なプリントや課題を与えながら、自学自習の習慣化へ繋げられるよう個別にも継続的に指導していきます。

(3) 地域行事への能動的な参加・地域社会との積極的な関わり

生徒は、小学生の時から現在に至るまで、地域の皆さんに支援をしていただきながら、様々な学習に取り組み、地域への愛着を深め、見守られているという感覚を持って生活しています。部活動の大会や練習等で行事が行われる休日にスケジュールが重なることも少なくありません。しかし、ボランティアの要請をいただいた際には、前向きに参加する生徒も少なくありません。中学校体育連盟の大会の日程を変更することはできませんが、学校での練習等については、調整も可能です。日程を調整される際や、ボランティアが必要な場合には、お声かけいただけましたら幸いです。今後は、地域社会を支える一員としての自覚や責任感の醸成を目指した取組を工夫し、ボランティア活動等への積極的な参加をうながしていきます。

6 家庭生活についてお願いしたいこと

(1) 基本的な生活習慣の確立、ゲーム・スマホ等におけるルールづくり

データ上は、就寝時間、起床時間、朝食の摂取等、基本的な生活習慣の部分で、見直しが必要な状況が見られます。そこには、70%以上の生徒がゲームやスマホに1時間以上を使っているということと、無関係ではないと思われます。ほとんどの家庭で、通信環境が整い、機器も普及する中、それらを抜きにした生活は考えられないという現状があります。しかし、そういった環境下で、近年、ネット依存・ゲーム依存が社会問題化しています。個人として、家庭としてルールを決め、節度を持って使用できるようにすることは、自制心を養い、他の時間を圧迫しないことにもなります。

(2) 家庭での学習習慣の確立【毎日2時間の家庭学習】

学力を定着するためには、充実した家庭学習が不可欠です。中学生の学習時間としては、2時間以上が望まれますが、単に時間のみにこだわるのではなく、自分に合った質の高い学習方法を見いだしてほしいと思います。学校でも、学習ガイド等によって指導をしながら、教科でも課題等の出し方について工夫をしていきます。また、自主学习ノートの取組を継続していきます。

家庭学習の習慣化と質の向上、時間の使い方の工夫について、励ましやアドバイスをいただければと思います。